

# 大地

第 10 号

1987. 3. 5

黒 浜 西 中  
P T A 広 報 部

未 来

青空にむかって僕は竹竿をたてた  
それは未来のようだった  
きまつている長さをこえて  
どこまでもどこまでも  
青空にとけこむようだった

青空の底には  
無限の歴史が昇華している  
僕もまたそれに加わろうと

青空の底には  
とこしえの勝利がある  
僕もまたそれを目指して

青空にむかって僕はまた竹竿をたてた  
それは未来のようだった。

# 食塩と健康

黒浜西中学校校長

村岡 悦夫

常に人間は健康で元気に生活できれば、人生最大の幸福であると思います。

暮れから正月にかけて、三十年ぶりに病院生活を送りました。

病名は胆石で摘出手術のため入院、十二月二十三日に約三時間の手術を受けて、無事に一月八日に退院しました。

普段、健康に注意しているようで、なかなか自分の身体の健康管理がなされていないことがわかりました。

毎朝 ジョギングをしたり、好物だった、タバコを止めて健康増進に務めてきたが、もう一つ、食事のことを忘れていたようです。病院の食事は、糖尿病と高血圧の治療のために塩分の制限をされて大変に苦痛でした。

いままで、好物だった、味噌汁、醤油、漬物と濃いめの味のものは

禁止 薄味に慣れるように指導されました。

毎日看病にあたってくれた妻もこの薄味に慣れるよう努力し、一日三グラムの食塩摂取量を維持しました。いままで、あまり考えなかった食事の管理について反省させられました。

成人病の予防にあたって、これから家族全員で協力して食事の管理をする必要があると病院生活から思いました。



## 横と縦のマトリックスで

### 豊かな中学生生活を

P T A 会長 清水 仁寿

早いもので、六一年度の P T A 活動も三月まで、残り一ヶ月となりました。

三年生の生徒は厳しい高校受験を終り、次のステップへ希望に胸をふくらませていることでしょう。保護者の皆さんも、ほっと一息ついておられること、思います。

本来は、中学校の授業課程が終り、その後に、受入側である高校が実施すべき入学試験であるべきであります。卒業と入学時期の近接という事情により、高校受験の時期が、中学校の三学期の中間になり、高校受験が、中学校教育の中に大きな影を落し、比重を高めつゝあります。

昔前云われた「高校の予備校化」の「中学校版」の危機さえあると云えましょう。

子供達にとっても、能力(学力)によって進路を選別されるという人生で初めての厳しい現実に向

するわけで、それを側で見守る親の立場も大変な重圧であります。

第二次臨教審の答申の中に「九月入学案」が提案されましたが、実現すると卒業後の休暇中の七・八月の二ヶ月が進路選択、入試を行う期間として使うことが可能になり、中学校教育の安定に役立つことなる可能性があり、注目して見守りたいものです。

中学校生活の中で大きな比重を占めるものに「部活」の問題があります。小学校と中学校との違いに「部活」があると答えている生徒が多い事実でも、部活の占めるウエイトが分ると思います。

部活は授業と異り同じ目的をもつ、一年から三年生までの縦の集団であり、先輩後輩の関係を通じて、技術の取得のみならず、人生の友人を見つける場でもあります。クラスと部活の両輪が相まって中学生生活はより思い出深い、潤いのある実り多いものになるでしょう。私達は、自分達の中学時代に思いを致し、子供達の健全な成長を願うようにしたいものです。

P T A 活動がその一助になれば幸いです。皆様の御協力を

### 前号

《アンケート特集、子供達を  
見直してみませんか》

に寄せて

前号のアンケート特集で、先生はじめ父兄の方々の御意見、感想を数多くいただきました。又、紙面でお知らせできなかった生の声もたくさん聞くことができました。おかげさまで、多方面から好評をいただき、部員一同ほのかな充実感を味わっております。御協力ありがとうございました。

又、前号の「大地」をお読みいただいた蓮田市教育長様より御感想をいただきました。

蓮田市教育長 大川原了祐

アンケートの内容を読んで、西中の生徒も一般的な傾向にあると思います。生徒の現状が心配ならば、親としてどう対応するか、この事が大切だと思います。私の校長時代に、中学三年間お世話になったが振り返ってみれば、学校で勤労体験学習をしていなかった。このまま社会人になったら勤労の大切さを体験しない人間になってし

まうと卒業式の翌日から私の家で高校入学の前日まで草取り、掃除等の仕事をやった母子がいました。今年成人式、今期待される職場人となっています。要するに親の考えと生活実践だと思えます。

体験の調査については、中学生段階の体験（孤独性、焦燥性、蔑視性）等の心理に関係した調査項目をあげてほしかったとは思いますが、喜怒哀楽数多くの体験が心の年輪となる事の大切さと、より良いと思う学校への進学期待、この両方のバランスをどう調整するか中学生の親として大切な生き方と思えます。

このような手数のかかる仕事をやって下さる方のいる西中、有難いことと、重ねてお礼申し上げます。



### シリーズ 思うこと

塩瀬 京子

この欄に書くことになり、戸惑った。何を書こうかと考えるものの、浮かんでくるのは生徒や学校のこと。夢にまで出てくる程だから仕方がないが、まあなんと自分は平凡な人間だろうとあきれてしまう。依頼メモの中の「執筆」の文字が眼の前にちらつき、これは大変だとますますあせる。日ごろ生徒に感想などを求める時、何でもいいからなどと言うのは、いかに無責任であるか、こんな時にふっと気付くものである。

三日程前、冷蔵庫がこわれた。夕方、とびらを開けると、冷凍してあった肉等が解けてしまっていて、わかった。そして、この日から、冷やす力を失った冷蔵庫は、突然、存在を主張し出した。娘は、「そういうえば、この冷蔵庫、十二年間ずっと休まずに働いていたんだね」と言っ

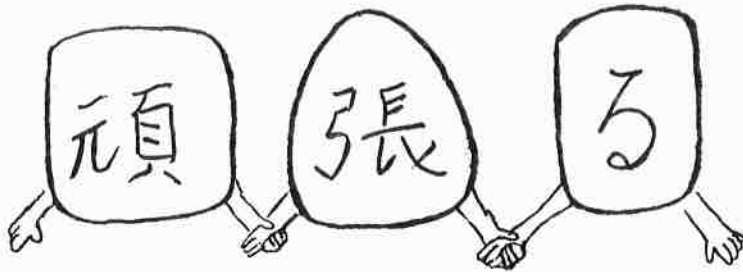
その違大さに気付いてもらったわけである。

今、やりたいと思っ、できない事がある。それは、楽器を演奏する事、それも、一人ではなく何人かで合わせる事。歌の伴奏でもいい、だれかと一緒に音楽をしたいと思う。音と音、心と心が重なりあうあの感覚を味わいたい。指揮をしながら、あちら側において演奏できたらどんなに楽しいだろうと、生徒がうらやましくなる時もある。学生時代には、日常の事で、さほど大事に思っ、なかつたものが、どれほど尊いものであつたか、身にしみて感じる。

「気付く」とは、「感じて知る」と辞書にある。思えば、今の子供たちは、学んで知ることには意欲的で、知識も豊富だが、心で感じて「気付く」ことが少ないのではないだろうか。豊かな時代には生き、逆境に立つこともまれな所以であろうか。子供たちのために、物も心も豊かであってほしいと望むのは無理なのか……。



二月七日(土)の放課後、各部の活動状況を広報より取材し、部員さん達の声を聞いてみました。  
 どの部も、出席率が良く、自分の所属している部が「好き」との事。当たり前のことかも知れませんが、基本的に一番大切な事と自覚している人達は、生き生きと練習に励んでいました。  
 「試合に勝つ」と言う一点の共通した目標に向かって、朝練の辛さも克服しているようです。  
 各部長の意見を総しますと、今まで以上に努力し、活発な部に行きたい、その為にも皆の力を出し合い、大きな声を掛け合って頑張っしてほしいとのことでした。



バレー部父兄 岡田 瑞夫

親として一番の心配はいかにして、子供の分野をいかに理解し、応援していけるかほんとうに悩みました。  
 小学生時代の思い出も体は大きい、あまりにもおさなくて、又健康についてもゼンソクぎみであり心身共にふらふらの状態でした。  
 しかし、中学生になって急速に成長へ向って変化があらわれてき

ました。初めはしつつけの大切さとか色々、夫婦で話し合った事は、何度かわかりません。

「熱中できる部活動」の影響がこんなにも大きく現われて来ている事実に、驚きと感謝でいっぱい。部活動を通して共に汗を流すなかに、友達間のきずなも強くなって来ており、「言葉遣い、集中力」も先生のお陰で大きく変化しております。今日では朝早く互いに助けあって、ブザーを鳴らし出かけていく姿を見るにつけ、毎日すがすがしく、又うれしく思っております。

私自身も、たまたま高校時代バレー部に所属しておりました関係で、先生の御苦労が手に取る様に伝わってまいります。今後もさらに成長まがいありますので、直しく御指導お願い致します。

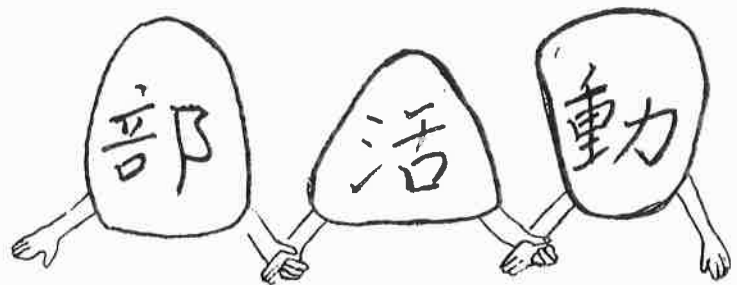




部活をしていて一番良かった事は、友人関係の幅の広さ、お互いの性格が良く分かるようになったり、礼儀が身についたこと。明るくなり、チームワークの大切さを学べたことだそうです。

只、日曜日の活動につきましては、たまには休みたい、私事を優先させるとの声も聞かれました。休日の予定を立てる上でも、ある程度、前もって練習日が分かっているかと思えます。

とにかく、自分自身で選択した部です。明日に向かって前向きな姿勢で取り組んで行ってほしいと思います。



サッカー部父兄 稲葉 礼子  
 学校から帰宅後、疲れきった身体をいったん横にすると、なかなか起きようとは致しません。やむをえず、起こしにかかりますと、必らず、「五分しか寝なかった」とか、「今寝たばかり」と言い訳ををし、遅くなってしまった時間を気にしながら、机に向かいます。大半のエネルギーを、部活で燃やし気力で机に向かう姿に、多少の不安も感じないわけではありませんが、今の彼にとっては精いっぱいなのかも知れません。

雨の日など、私は少しでも寝ていられる事にホッとしますが、彼は一日でも練習を休むと体調が悪くという。その間勉強でもするのかと思えば、サッカーの本を読んだり、泥で汚れたサッカーシューズの手入れをしています。

とにかく優勝に向かっての努力は惜しむ事なく続けられる事でしょう。体調を整え、万全を期して試合に望んで欲しいと、願うだけです。



文化部に入部 清水ヒサ子  
 小学六年の時、中学生になったら何の部に入るかが、最大の話題だった。お兄さんお姉さんのいる人から、どのような部があるか聞いてある程度は知り、その中であれこれ希望を持ち、不安を感じたり、学習面のことなどそっちのけだったことを思い出す。いざ、入学して仮入部の期間は、今日は文化部を見て来た、明日は運動部も見ようと実に楽しそうだった。子供としては、ある程度の話の中から文化部と決めていたようでした。それほど迷わずに入部。入学式の演奏や仮入部で見た先輩の作品に感動して来たのを思い出す。正式入部で、先輩に教えてもらってやっぱりすごいと驚き、先輩を手伝うことになる、うまくゆかないと悩んだりもしている。でも手伝うというのは自分の勉強になると気づいてくれたのは、子供にとって大収穫だったと思う。同じように好きなことをする集まりなのでみんなが目標にむかって前進してほしい。授業とは異なる勉強ももっと頑張って、すばらしい思い出として心に残るように、今、がんばってほしい。

# ふり返って

## 一年主任

永田 寿一先生

今年度もたくさんの行事が行われましたが、その中で十一月下旬に実施された宿泊学習について、少し述べたいと思います。  
中学生になって初めての宿泊を伴う行事とあって、準備の点で、何かと忙しい毎日でした。生徒主体の運営委員会を中心にいろいろな企画を立て、自主的に楽しい内容になるよう、毎日話し合いました。国立那須甲子自然の家は、雄大な自然に恵まれ、その中で生徒達は、思いの体験学習を通して、友情を深め合いました。体験学習では、もちつき、ハイキング、木竹細工、オリエンテーリングに分かれて、学習しましたが、けっこう皆熱心に

取りくんできました。その他、野外炊飯など、生徒の自主性を多く生かすようにしました。



これからも、宿泊学習の行事を通して、今年の一年生に欠けている連帯感や規律が、少しでも向上すればよいと考えています。  
御家庭でも、子供にいろいろな事を体験させ、その楽しさや苦しさを考えさせることも必要だと思います。よろしく御協力下さい。

## 二年主任

中村 武夫先生

三組の廊下を歩いていると、教室のほうから帰りの会の合唱がきこえてきました。  
校歌を歌っているのだが、ふと四月頃の歌声を思い出しくらべてみると、とても低い声であること

に気がつき驚きました。

二年生の男子生徒も三学期になると、多くの生徒が声が変わり、して重い音に変わる。背が伸びて、あごに黒いものが見え、男らしさがめだつ。また、女子生徒もふっくらとして学生服が体にぴったりする。全体的に、中学生らしく落ち着きが出て、成長したように感じられるこの頃です。

この一年間、様々な行事、できごとが生徒たちを大きくしました。いきいきと活動して楽しい思い出となった林間学校、運動会、文化祭、新人戦。

。だらしなくなった服装、清掃、言葉、態度。

。真剣さが増した部活動、学習、進路。

。しんこくな問題となった友達関係。

二年生までは、あまり落ち着かなかった生徒も、三年生に入ると生活態度も良くなり、学習意欲が見られるものです。

春休みは三年生にむけて、十分な心の準備をする大切な時期です。そのためにも、家庭で十分落ち着いた生活ができるように話し合いを心がけてください。

## 三年主任

本田 定先生

この一年間を振り返ると、四月の慌しい時期の修学旅行を皮切りに、あっという間に二期の三者進路相談を終え、気がついてみると受験を待つだけとなりました。今年の進路問題は例年と多少、方法が異なっていたので、ふたを開けてみないとわからない面がありました。予想どおり難しいものとなりました。格言にも「終りよければ、すべて良し」とか「有終の美」などと言うように最後の締めくくりがうまくいかないと何となく、心残りがするものです。そういう意味ではこの一年間、悔いの残らないような指導をしてきたつもりですが、私達の力不足のため、保護者の皆様に十分意志の疎通ができなかったことをただただ反省している今日、この頃です。ただ言えることは、今の受験が人生のすべてではないという事です。人間の持っている能力はいつ、どこで開花するかわかりません。自分の思惑どおりいかない人、これからも努力することだけは忘れないで下さい。

# 一年を



作りを心がけながら一年間活動してまいりました。

バザーでは会員の参加はもとより、地域の自治会、商店の方々の御協力で、大成功を収めました。

校長先生、諸先生方の「餅つき」も行われ多くの生徒も交え、和気あいあいの中、楽しい一日を、過ごすことが出来ました。

③参加することに意義があると感じています。一人でも多くの方が気軽に参加出来るPTAでありたいと願っています。

そして保護者の皆様、子供達が、立派に一人歩きできるように適切なアドバイザーになって下さい。

### 企画運営委員会

- ①活動内容
- ②感想
- ③今後の課題

### 総務 池田水子

- ①バス旅行(八月)
- ②さきたま古墳バザー(九月)
- ③参加するPTA

### 教養部

部長 木所 直子

- ①料理教室(六月) 家庭料理
- ②音楽鑑賞(十一月)
- ③夕飯や弁当作りに役立つ手帳な料理は好評でした。一回で終り、申し訳けなく思っております。

音楽会も日頃口ずさむ歌など、身近な曲で聞きやすかったと、お誉めの言葉をいただきました。

③次回の音楽会は、大きな規模の楽団を招いてみたいかがでしよう。会員相互の親睦をはかるためにも、皆様方の希望に答えられる部として、活動してまいりたいと存じます。

### 進路

部長 岸 安子

- ①六月 県立高校十四校見学
- ②九月 進路先バス見学会
- ③十月 進路講話(私立)
- ④十月 進路講話(県公立)
- ⑤三月 謝恩会
- ⑥〃 学年PTA(一・二年)

②進路先を見学したことにより、設備、特徴、生徒の様子等を実際に参加者が自分の目で確める事が出来、参考になりました。

③事業活動の再検討 会員が当部に何を期待しているのか具体的に

反映させる。

名称の変更、現在の名称は、誤解されやすい。

### 部活動

部長 浅香 雅代

- ①六月 社交ダンス教室
- ②〃 部活動見学会
- ③七月 市内大会応援依頼
- ④九月 バザー 焼ソバを担当
- ⑤十月 市内新人戦応援依頼
- ⑥十一月 校内ロードレース大会交通整理
- ⑦十二月 市内駅伝大会参加者に雑煮を作る

②元県社会教育課長の犬丈先生の御指導で、マンボ、チャチャチャルンバ、ジルバ等を楽しみました。

お父様方の出席がもつとあればよかったですと思います。部活動見学会には多くの会員の参加もあり、御意見も多くいただきました。

③各大会の応援依頼を、担当者毎に、各部の連絡網を通して、廻していたのですが、全部にまわる事がなく、これからの課題だと思います。

### 校外

部長 黒須 健寿

- ①下校時パトロール立哨
- ②夏休み、夏祭りパトロール

③年間目標を「さようなら、気をつけてね」の一声運動におき活動してまいりました。最近生徒から少しずつ声もかえってくるようになり、事故もなくうれしく思います。ただ畑や、林の中を帰る生徒がいて地域の方に御迷惑をかけることが有り残念に思います。

④交通安全、立木の枝落し、カーブミラーの取付、暗い所に街路灯の取付を市にお願いし、一日も早く安全な通学路になる様にしていきたいと思っております。

⑤「自転車走行時における交通安全意識調査」のアンケートを実施

⑥「ミニバイク競技会」へ参加

⑦歳末交通安全街頭キャンペーン

⑧◇一瞬の油断が招く身の不幸◇公道を横断がりに歩く生徒が、目につきます。

友と楽しく語いながらの帰路も青春の思い出の一ページではあるのかもしれない。が、一たび事故に結びついた場合、取り返しの

つかぬことにもなりかねないと思うのです。

「一年間無事に過すことが出来ましたが、今後とも交通安全に対する会員各位の意識をたかめていきたいと思います。」

広報部 浜田 三恵

(一)七月 広報紙八号発行

九月 バザー手伝い

十二月 広報紙九号発行

二月 広報紙十号発行

(二)広報九号のアンケートは、今まで中学生の生活や考え方が分からなかったものが、他の子供達の生活の様子、考え、も知る事ができて参考になりました。

又、部員相互の意見交換は、広報紙のことから、躾や教育問題にまで発展し、それなりに意義深かったように思います。

予想していたより短時間で効率よくできました。

。部会の時間帯を工夫したので、勤めを持っている部員も参加できました。

(三)会員だれでも参加出来る広報紙作りを目ざしたいと思えます。

### 保健室のつばやき

小林 由美

「せんせい、バンドエイド」「シップください。」

保健室では、このような単語だけの会話が一日に何度もさかれます。

また、保健室を訪れる子ども達の大半は友人同伴です。

本人は黙ったまま、友人が症状を告げるのです。半分呆れて私はこう言います。

「いつ、どこで、どんな風にけがをしたのか(具合が悪くなったのか)自分で説明しなさい。自分のからだのことですよ。」

子ども達の健康管理もさることながら、中学生として、自分の口から筋の通った会話ができるよう保健室においても指導に努めています。



## 廃品回収

今年度も残り少なくなりました。保護者の皆様、また地域の皆様には黒浜西地区の廃品回収に絶大なご協力を賜わり、まことにありがとうございます。

この一年の収益金については、まだ最終的な集計がでておりません。詳しくは後でご報告申し上げます。とりあえず皆様のご協力に對してお礼申し上げます。



### ★雑感★

今はあまり使われなくなった言葉に「ばちがあたる」ということばがある。現在は生活も豊かになり、品物も豊富に出まわっている。そんな毎日の生活の中でついものを粗末にしがちである。そして、「儉約する」とか「節約する」も「ないない」などということばは

使い方、使う場所によっては「けちでしみつたれであまり時代にそぐわない言葉」のようにとられがちである。

しかし、いくら時代が進んでも大切にしなければならぬものはあるはずである。それを見失った「ばちがあたるだろう。」

廃品回収がちょっとした皆さんの気のくばりと不用となったものの扱い方とでささやかであつても本校の教育活動に役立っている今、その心こそ大切にしなければならぬのではなからうか。

「ちりも積もれば山となる」という言葉がある。そうかと言ってそのために「つめに火をともし」ような生活はしたくはないが「つめで拾って箕でこぼす」ような生活もしたくない。

廃品回収で得た収益金を大切に活かさせていただきます。そして来年度も絶大な御協力をお願いいたします。

### 編集後記

部員一同

多くの皆様に親しんでいただけたら幸いです。一年間楽しみながら努力してまいりました。御協力ありがとうございました。